

双峰小学校及び唐竹小学校のよりよい教育環境を実現するための基本方針

(説明会資料)

1 両校の統合について

両校を統合し、クラス替えを行える規模にすることにより、人間関係の固定化を防ぎ、将来を担う子どもたちが今よりもさらに広い人間関係を構築できるようにする。

【関係データ】

答 申：両校のよりよい教育環境について（学校生活面）

- (1) できる限り人間関係の広がりを持たせ多様な個性を尊重し、社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる必要がある。
- (2) 1学年あたり100人弱程度の児童数が望ましい。
- (3) 「人間関係の固定化」やそれによる「トラブルを長期間引きずってしまう」といったことをなくす対応が必要。

2 1クラスあたりの児童数について

全学年において35人を上限とした学級編制（以下「35人学級」という。）をし、児童一人一人の個に応じたきめ細かい指導を行えるようにする。

【関係データ】

答 申：両校のよりよい教育環境について（学習面）

- (1) 学校規模よりもクラスの児童数の数が大きく影響する。
- (2) 個に応じたきめ細かい指導をするためには、1クラスあたりの児童数を限りなく少なくすることが必要。

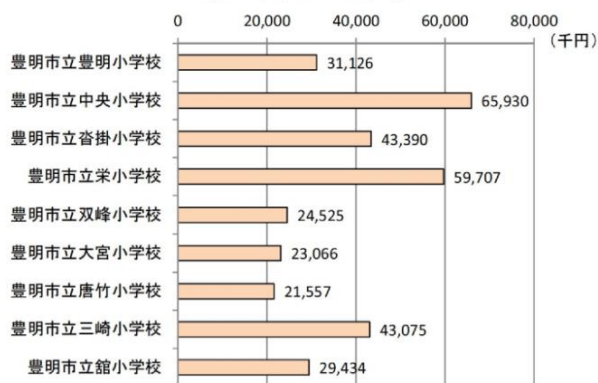
人数：県の基準（3年生以上は40人学級）を上回る部分については、市の職員として採用。現時点で統合したものとした場合、3・4・5年生の3人を採用することになる。

この人件費として、唐竹小学校の施設維持及び運営コストである2156万円（公共施設白書 2014 より）を充てる事により、新設校においては35人学級を実施することが可能。

平成29年4月1日現在

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
双峰小	人数	50	62	51	42	50	47	42	40	47	43	39	35	4
	クラス数	—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	1	1	2
	クラス人数	—	—	—	—	—	—	21	20	24	22	39	35	—
唐竹小	人数	30	33	29	31	33	38	28	32	31	30	35	27	6
	クラス数	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	3
	クラス人数	—	—	—	—	—	—	28	32	31	30	35	27	—
統合した場合	人数	80	95	80	73	83	85	70	72	78	73	74	62	10
40人学級	クラス数	2	3	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	3
	クラス人数	40	32	40	37	28	28	35	36	39	37	37	31	—
35人学級	クラス数	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	3
	クラス人数	27	32	27	24	28	28	35	24	26	24	25	31	—

公共施設白書 2014 総コスト(H24~26平均)



※工事請負費・償還金は除く

3 外国籍児童の日本語教育について

日本語の習熟が十分でない外国籍児童にきめ細かく日本語を指導するため、空き教室を利用し、習熟レベルに合わせた取り出し授業をさらに充実させる。

【関係データ】

答 申：両校のよりよい教育環境について（学習面）

- （１） 外国籍の児童が多いことが両校の特徴。
- （２） 多文化に触れ合える機会が増えるという良い点がある一方で、日本語の習熟レベルに差があるという問題がある。日本語の習熟度別の取り出し授業をさらに充実させる必要がある。

人 数：平成29年9月現在で日本語指導が必要な児童数は、双峰小55人・唐竹小28人の合計83人。なお、平成27年～29年のデータで見ると、学区内の外国人数は、年1%弱ずつ増加しており、今後も増えていく見込み。

4 統合後の学校について

35人学級や外国籍児童の日本語指導を行うため、収容規模の大きい双峰小学校を使用する。ただし、新設校と位置づけ、校名・校章・校歌は新しいものとする。

【関係データ】

教室数：建築当初の設計として両校の普通教室数は、双峰小学校が36教室、唐竹小学校が25教室。

必要数：現時点で統合した場合、35人学級や日本語指導を充実させるために、普通教室19、各学年室6、日本語指導教室3、児童会室1、児童クラブ3、放課後子ども教室1など30以上の普通教室数が必要となる。

5 統合の時期について

統合の時期については、円滑な移行のための十分な準備期間が必要なことから、平成33年4月以降とする。その間に学校名の検討、両校の交流、学校施設や通学路の整備等を行う。

【スケジュール案】

29年度	教育委員会にて統合について精査し、最終決定
30年度	統合準備委員会設置 委員会において統合計画・校名等の審議 学校条例の改正
31年度	両校の交流 施設等の改修設計
32年度中	両校の交流 施設等の改修
33年4月以降	新設校開校

6 学区及び通学路について

統合後の学区は、現在の双峰小学校及び唐竹小学校の学区とする。ただし、児童の安全な通学の観点から通学路を検討するとともに、公共交通機関等を利用した通学についても保護者と共に検討する。

【唐竹小学校通学団の通学距離の変化】

通学団	現在 (km)	新設校 (km)	通学団	現在 (km)	新設校 (km)	通学団	現在 (km)	新設校 (km)
間米上1	1.4	1.9	3中45	0.3	0.8	1西1D	0.3	1.3
間米上2	0.2	0.8	3中44	0.3	0.8	1西2A	0.1	1
間米上3	0.4	0.8	3南1	0.3	0.8	1西2B	0.1	1
3東A	0.5	0.7	3南2	0.3	0.8	1西2C	0.1	1.1
3東B	0.5	0.7	間米下	0.8	1.8	2東	0.5	1.2
3北	0.3	0.6	1東	0.4	1.4	2西1	0.4	1
3中41A	0.3	0.8	1西1A	0.3	1.3	2西2	0.3	1.1
3中41B	0.3	0.8	1西1B	0.5	1.5	2西3A	0.5	1.3
3中42・43	0.3	0.8	1西1C	0.5	1.5	2西3B	0.4	1.3

7 両校の伝統や行事などについて

新設校においては、両校において長年培われてきた伝統や行事などを尊重し、生かす。また、「特別活動や学校行事などで児童が活躍できる機会が多い」、「学年を超えた交流ができる」など小規模校としてのメリットを生かせるような教育環境を作る。

【関係データ】

答 申：(1) 両校のよりよい教育環境について（学習面）

「学習面で児童一人一人の子どもたちを大切にしたい個に応じた指導ができる」「各行事や諸活動において児童が活躍できる機会が多い」、「学校施設を有効に使用することができる」などのメリットを継続した教育が必要。

(2) 両校のよりよい教育環境について（学校生活面）

「児童同士や児童と教員のつながりが強く学校に対する愛着や信頼を持つ事ができる」、「のびのびと学ぶことができる」、「学年を超えた交流が活発になる」、「教員が児童の学習や学校生活を把握しやすく、結果的にトラブルの早期発見・早期解決を図ることができる」などのメリットを生かしたきめ細かい環境整備が必要

8 両校の児童の精神的なケアについて

統合前後における児童の精神的な負担を軽減させるため、大学などの専門機関の協力のもと、児童及び教職員へのカウンセリングを充実させる。

【関係データ】

対 応：統合前後では、愛知教育大学に協力を依頼し、子どもたちのカウンセリングを充実させる。また、現在の児童への精神的負担のケアのため、学校と相談の上、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー（※）を重点的に配置。

※ スクールカウンセラー：児童の悩みなどについて、臨床心理士が相談や助言を行う。

スクールソーシャルワーカー：児童と学校と関係機関をつないで、問題を解決していく。

9 現在の唐竹小学校の統合後の利用について

統合後の唐竹小学校は、市の公共施設として維持し、子育て関係の施設を中心に複合施設として利用するとともに、地域に意見を聞き、地域の拠点や災害時の避難所としても活用する。

10 中長期計画について

建て替えの時期までは、新設校において新たな統廃合の検討は行わない。

【関係データ】

使用年数：RC造（鉄筋コンクリート）の使用年数は80年（※）。双峰小学校は、昭和46年（1971年）に建築されているため、この使用年数に基づく建て替え時期は、2051年（34年後）が目途となる。

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
豊明市立豊明小学校	昭和 39	50	RC造	有
豊明市立中央小学校	昭和 39	50	RC造	有
豊明市立沓掛小学校	昭和 36	53	RC造	有
豊明市立栄小学校	昭和 45	44	RC造	有
豊明市立双峰小学校	昭和 46	43	RC造	有
豊明市立大宮小学校	昭和 50	39	RC造	有
豊明市立唐竹小学校	昭和 50	39	RC造	有
豊明市立三崎小学校	昭和 52	37	RC造	有
豊明市立館小学校	昭和 54	35	RC造	有

公共施設白書 2014

※校舎のうち最も古い校舎の情報を示す。

※ RC造の学校の使用年数は、愛知県立学校施設長寿命化計画で80年としており、本市においても、その基準を準拠。

11 事後評価について

市長部局は、教育委員会の協力のもと、統合後初年度は学期単位、以後は1年単位で、教員・児童・保護者を対象にアンケートを行い、よりよい教育環境となっているかについて事後評価を行う。